

# 落慶に寄せて

柳田義一

旭日昇天の勢に燃えてきた神戸の鈴木商店は、欧州大戦から三井・三菱を凌いで、天下三分の計に取り組み、五十有余の関連会社を動かして、産業報国のために五つの海に王座を占め誇りつづけていたにもかかわらず、昭和二年四月二日の経済パニックの激動は、遂に鈴木商店の破綻の運命をもたらすに至った。顔色一つ変えなかつた器量人の鈴木よね刀自と言えどもひとこと、『兼ねてから覚悟とは言え、エレベータのように降りる瞬間はちよつと落着かない』と沈痛の色を示された。あの優雅な須磨大手の本邸から塩屋に移られ、閑居の刀自には、日頃からたしなまれていた、花造り、謡曲、短歌、連珠碁、魚釣りなどお孫さんに取り巻かれながらの規則正しい日課の毎日であった。特にその間、平野祥福寺の禪門を叩かれ、經典の心髓に触れられ寧日がなかった。或る日たまたま、碧層軒和尚はよね刀自に向つて、突然六甲篠原に発願している祥龍寺再建の協力を提案された。

時節柄ではあるが、外ならぬ和尚のことはだけに黙し難く、柳田、金子両翁にこのことを打ち明けられた。金子翁はやおろ口を開かれ、『お家様これにも毛頭ご心配はいりません。永年にわたるあなたのお給金は、別途に積み立てて保管しております。幸いこの際、祥龍寺再建基金に役立てたら……。』と承諾さ

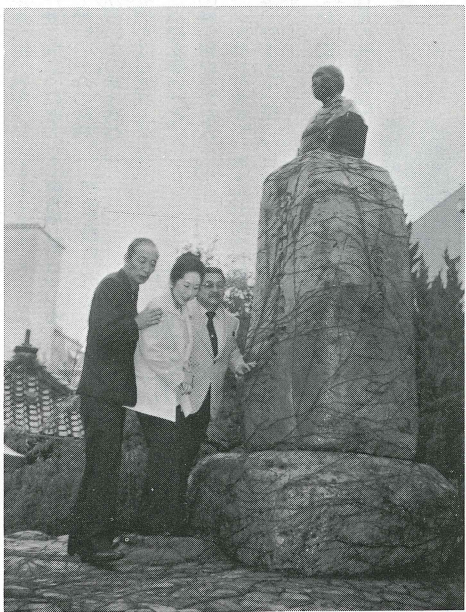
れ、これによつて和尚の予想外の喜びはひとしお。開祖法道仙人の法燈絶ゆることなく、鑿槌の音も勇しく響きわたり活況を呈するに至つた。これが竣工されてから碧層軒和尚は別院であるここに移られ、戒律の中に多数の雲水の薫陶が始まることとなつた。これが今日の祥龍寺の前途の繁栄の原動力ともなつたことは嬉しい次第である。

話を転じて顧みるに、私がこの寺にお邪魔し始めたのは再建の頃のよね刀自の銅像が納まってからである。ここに私と宗信和尚との触れ合いが始まり、長いおつきあひはなつた。たまたま夜分に、和尚を訪れると赤ちゃんの襦袢を丸火鉢の上で乾かしておられる姿を見た。また、ある時は和尚の両手枕で赤ちゃんをねかしておられる。これが菩薩行というのか俗人では真似の出来ぬところである。つねに河童和尚とか、今良寛様などと噂されながらのあけくれの日常に終始されていたようである。戦後日も浅き昭和二十五年三月、鈴木商店にゆかりの深い高畑、田宮、久村、金光、大屋氏等の有志によつて、神戸港の見える山内の場所に、金子直吉翁、柳田富士松翁の頌徳碑が建立された。この除幕式には縁故者多数が参会し両翁のご冥福を祈り続けた。

昭和三十五年十月、鈴木商店OBの集まりである辰巳会が神戸国際ホテルにて誕生した。また、昭和三十九年五月六日には神戸オリエンタルホテルの広間において、鈴木よね刀自の二十五回忌法要を行った。この日のいでたちは宗信和尚以下雲水姿も重々しく異彩ある表情に一同感嘆の声をあげた。昭和四十二年四月五日、辰巳会全国大会として祥龍寺内陣にて物故会員慰霊祭を催した。引き続き、翌四十三年四月二日、会員相互の浄財によつて素晴らしい供養塔が山内に建立された。そうして除幕式は辰巳会全国大会として盛大なる法要が営まれた。四十四

年四月四日も大会を開くこととなり、荘厳なる大般若経によつて香煙立ち昇り、また盛儀であつた。この日の予定として、法要が済みバスにて六甲山へと登つたところ、俄然大雨となり、昼食もそこそこに、ことば通り流れ解散の憂目を見たことである。さらに、四十五年五月七日、辰巳会の創立十周年に奈良依水園の名園にて宗信和尚を導師として迎え、鈴木よね刀自の三十三回忌の大法要となつた。この日もまた空模様怪しく法要最中は驟雨のため、一同濡れ鼠となつて立ちすくんだ。然るに仏果のお陰か、式典の終るころはからりと天候回復し、昼食の模擬店の珍味も一段の風味で悦びの思い出となつた。

また、兼ねてからの懸案であつた、支配人西川文蔵大兄の頌徳碑も山内に建てられることになつた。昭和五十年五月十五日、大兄のご命日に相寄り、しめやかに式典が行われた。境内は段々と辰巳会によつて日増し狭められる感が深い。また、物故会



▲海鳴りやまざの作者花登筐、月丘夢路、藤岡琢也さんが揃つてよね刀自胸像を訪う。

員各自の墓地そして楓英吉、小川實三郎、中井義雄、高畑誠一氏と年々増えて賑々しき限りである。今から考えると、最も印象にのこつたのは去る昭和五十三年十一月九日、播州姫路書写山円教寺の秋色深まる中に、祥龍寺から宗信、応峰禪師を迎えての例会を催した。この折宗信和尚の大唱一声は撰播の山々にこだまとなつて響いた。思えば噫々この行を最後として宗信和尚の遷化を見、これが辰巳会としても永遠の訣別とは果かない次第である。

生前宗信和尚の日頃から心にかけておられたことは、五十年この方、風雪に堪え忍んで来た本殿大屋根葺替修復であつた。没後、応峰和尚はこの遺志を継がれ、鈴木よね刀自との因縁にも照らされお孫にあたる鈴木治雄殿にこの悲願を相談された。鈴木治雄殿の御快諾から大屋根修復委員会の委員長として物心とものご配慮に預かつたことは感謝の念に堪えない。ここに大屋根瓦の二万枚の葺替工事も竣工し、この落慶を目のあたり

(太陽鋳工株式会社監査役)

## 緑蔭無想

一遇を照らせば 無なる青田かな  
曲る小川に道も曲る猫柳  
在りし世は蜘蛛を嫌ひし和尚かな  
紅梅の咲かぬ蕾に香りあり

(三月七日記)



